

No.5 October 2020



新大学名称「大阪公立大学」を掲げる
西澤良記・公立大学法人大阪理事長



今年6月26日に開かれた新大学名称決定会合
(写真はいずれも大阪市役所で、公立大学法人大阪提供)



新大学名称を発表する左から
吉村洋文大阪府知事、西澤理事長、松井一郎大阪市長

新大学の名称は、「大阪公立大学」に決定! 英語名称は「University of Osaka」

大阪市立大学と大阪府立大学を統合した新大学の名称が6月26日、大阪市役所で開かれた新大学名称決定会合で「大阪公立大学」に決まりました。両大学の統合問題が浮上して9年、新大学の名称も決定し、2022年春の開学に向けて大きく動き出しました。「これまでの大学の概念を超える新たな大学の実現を目指していきたい」と公立大学法人大阪の西澤良記理事長は熱い思いを吐露されています。

この日の新大学名称決定会合には、吉村洋文大阪府知事、松井一郎大阪市長、西澤理事長が出席。冒頭、西澤理事長から、新大学の名称について昨年9月から両大学学長をはじめ役員でディスカッションを重ね、今年2、3月の府市両議会で新大学の設置が認められたことを受け、法人内に「新大学名称検討委員会」を設けてさらに検討を加えた結果、「大阪公立大学」「公立大学大阪」「大阪総合大学」の3候補に決定したことを報告。

さらに西澤理事長は、このほか「大阪城大学」や「なみはや」「森之宮」などの案が出されたが、「普遍性、公立、地名の明記が必須と考えこの3つの候補に絞った」と説明。その中でも「これまでのブランドを引き継ぎつつ、多くの人に納得してもらえる、府市が設立した大学と分かる、必要最小限の文言」ということで大阪公立大学がいいと思う」と話しました。

これを受け、吉村知事は「府市が設置することが分かる名前で、奇をてらうより分かりやすい名称」、松井市長は「両大学の伝統・歴史を継承しながら、それぞれの強みを生かし大阪、日本の発展に寄与する全国で初めての統合大学。分かりやすい名称が重要」とそれぞれ支持を表明、決定しました。

新大学の英語名称については、西澤理事長から「Osaka City University」「Osaka Prefecture University」「City University of Osaka」「University of Osaka」の4つの候補名を提出。英語名称が類似する府県名の公立大学と国立大学では、国立大学は「地名+University」、公立大学では「University of+地名」となっていること、さらにアメリカ西海岸系の州立大学では「University of～」が使われ、その地域の大学であることを明示していると説明。

これに対して、吉村知事は「府市を支え、府民市民の生活を豊かにする公立大学の名称にふさわしい」、松井市長は「日本各地ですみわけができるので、阪大はOsaka University、我々はUniversity of Osaka」とそれぞれ賛同、西澤理事長は「University of Osakaであれば新しい未来の大学ができたということが明確になる」と話し、英語表記が決定しました。

文責:藤山純一(法昭51卒)

会員各位へ御礼とご報告

本年は有恒会にとりまして記念すべき創立130周年、会員各位には記念事業遂行にあたって、昨秋よりお願いしております協賛金につきまして、絶大なご協力を賜り改めて厚く御礼申し上げます。

ご承知の通り、春先からの新型コロナウィルス感染拡大は有恒会の活動に大きな影響をもたらしました。5月に予定しておりました記念総会等、各種行事をはじめ、各支部総会につきましても殆どが中止、または内容を変更、規模を縮小しての延期となる異常な事態となりました。

そのような状況下ではありましたが、広報部会はじめ関係各位のご協力により、予定通り4月には130周年記念誌を会員の皆さまのお手元に届けることができました。本誌の記念広告に

有恒会運営本部

ご協力いただいた皆さんにも併せて御礼申し上げます。

コロナ禍は今なお終息の兆しを見せませんが、有恒会では同窓会の使命でもある母校支援の立場から、会員部会を中心にして市大病院の医療関係者へのサポート、学生の生活支援等に取り組む予定です。

今後、ウイズ・コロナ時代に入り、同窓会活動の原点である「会員同士の直接のふれあい」が制約されるという同窓会活動にとって極めて難しい局面を迎えることが予想されますが、有恒会ではこれまで同様、会員の懇親、交流をベースに、母校の支援につながる活動を模索してまいりますので、会員各位のご支援よろしくお願い致します。

牧野忠廣 運営本部長

注目されていました統合新大学の名前が「大阪公立大学」に決まり、2022年春の開学に向けて大きく動き出しました。そこで大学名や新大学への思いなどについて同窓会関係者や学生に声を寄せていただきました。(順不同、敬称略)

児玉隆夫・同窓会会长 和名「大阪公立大学」は平凡ですが、よい選択だと思います。ただ、英文名は「Osaka Metropolitan University」とするなど阪大と明確に区別できる工夫をお願いしたい。日本一の公立大学として全国に抜きん出た、それぞれの学部の特色を持つ新大学を目指してほしい。

岡本直之・有恒会会长 有恒会は、長い歴史に培われた伝統と蓄財された人材を財産とし、常に搖るぎない正しい心と高い志を持った人たちの集まりです。新大学の名称も決まったことから、今後は新大学を全力でバックアップするため、強力に応援できる体制づくりに邁進したい。

塚本喜左衛門・教育後援会副会長 府大の全学同窓会校友会会长の津戸正広氏とは、市大入学時、出席番号1番違いの同級生でした。津戸氏は府大大学院から経済学部長となり、現在に至りますが、このご縁で家業の近江商人の講義も府大でさせていただき、新大学での出会いを楽しみにしています。

杉本俊門・OCUSA会長 統合新大学の名称、英語表記に関しましては、異論

ございません。OCUSA(大阪市立大学スポーツアソシエイション)としては、名称云々より、両大学の体育会クラブの合流、統合新大学での活動がより発展できるように支援することが重要と認識しています。

石黒直文・北海道支部長 University of Osaka、大阪公立大学は、いい名ですね。世界一の人口減少、高齢化の「先進国日本」の未来は、子どもたちにかかっています。これをチャンスに府



市大府大の融合による
新大学のイメージ
(公立大学法人大阪提供)

と市が力を合わせて、金を惜しまず、東大、京大ではなく世界一の大学を創ってください。

深尾愛二郎・東京支部長 大阪公立大学という名称は多少の批判もあるでしょうが、分かり易いですね。新設大学に期待することは、統合の理念が実現され、学生の学び、研究成果において他の大学にはない特徴ある優れた大学に育ってくれることです。

高橋敏朗・奈良支部長 新大学では次のような大学モデル作りの検討を願

います。伝統遺産としての「自由な雰囲気」の学風の下、研究重点大学としての地歩を固めつつ、決して教育軽視に陥らず、公立大学としての特徴づくり、即ち、大都市大阪の諸課題解決に、率先して取り組むことを望みます。

金村福寿・大阪南支部長 大阪公立大学ではインパクトが全国に伝わらないように思います。関西以外の人たちには令和の新生大学と思われないように府市は新生「大阪公立大学」の歴史、実績を全国の高校、企業等に丁寧に充分なアピールをしていただきたい。

沼裕子・クアラルンプール支部長 大阪公立大学の名称は、堅実な名前で評価しています。英語名の「University of Osaka」は、レベルアップしたような印象です。新大学の組織は、市大、府大の伝統を承継し、うまく統合していくといいですね。

福田夏実(文学部3年) 自分が通う可能性は低いですが、両大学の強みや良い点を合わせた、学生にとっても通いやすい制度が整い、研究にも適した大学になればと思っています。

竹中涼(法学部3年) 新大学名発表の直後に、名称がニュースやインターネット上で大きな話題となったのは記憶に新しいところです。この高い注目度を活かし、わが校がより広く知られるようになれば、現役生としてこれほどの喜びはありません。

5学科長が語る新大学と創立130周年を迎える有恒会への期待

4月6日に各学科長に集まって頂き有恒会130周年記念シンポジウムの打合わせをさせて頂きました。

有恒会 岡本直之会長

シンポジウムの開催に先立ち、新大学で各学科にどのような変化があるのか?また有恒会に期待すること等の率直な意見を聞かせて頂ければと思います。



中瀬哲史 商学研究科長

できる限りよい新大学を構築したいと考えている。有恒会には130年の歴史とドラマがありそれはまさに壮大な“群像史”そのものである。有恒会は自立した会員が緩いつながらを保ちながら130年続いてきた。シンポジウムでは、“有恒会とはどういうものか”と、“新大学に対する思いの温度差”について話したい。



中嶋哲也 経済研究科長

市大経済学部の教職員は30名で新大学では44名となることから、今までの流れが途切れる事はない。市大の教育の基礎に府大の先生方が加わることで、元来の多様性のある研究をさらに広げて行くことができる。また経済学の素養を生かし、グローバル社会で他人と協力しながら問題を解決できる学生を育て今までの経済学部の理念をさらに発展させて行きたい。



安竹貴彦 法学研究科長

府大から教員は3名入る。研究を優先してその成果を正しく学生へ還元し、教員・学生・同窓生が一体となる流れを絶やさないようにしたい。組織・学部・ロースクールも大きく変わらない。大学院では研究者養成のみならず、高度職業人養成(公務員・裁判所職員など)の志望学生を集め



優秀な社会人の養成を考えている。また公務員志望の学生が多いのでリーガルマインドを身につけた公務員を輩出したい。

小林直樹 文学研究科長

文学研究科は統合に先立って組織改編を行ったため、現状のまま新大学に移行する。そして2025年には文系学部の中で先陣を切って森之宮キャンパスに進出する。新キャンパスでは都心立地や最新の施設を活用して今まで以上に多彩な教育・研究活動を展開し、広く優秀な学生を集めたい。シンポジウムでは組織体制が変わらないことと森之宮進出についてお話をできればと考えている。



新藤晴臣 創造都市・都市経営研究科長

創造都市研究科から2018年に都市経営研究科へ改編された。組織自体は変わらず、拠点の大駅前第2ビル6階のロケーションも変わらない。統合後は新大学で唯一の社会人大学の位置づけとなる。創造都市の学生は、梅田で学び卒業する形態であるため市大の卒業生である認識をうまく作ることが課題。シンポジウムでは都市経営研究科の見えにくい点をきちんと説明したい。



編集部註:5/23のシンポジウムはコロナ禍で中止となつたため、ビデオメッセージを配信予定。

有恒会からの支援

昨今のコロナ禍により、有恒会におきましても、有恒会総会の延期縮小や各支部総会の中止等様々な影響がでております。このような中、有恒会では、コロナ禍での大学並びに在学生支援として5百万円を補正予算化し、大学病院への支援、大学祭学生実行委員会への支援、学生食事補助での具体策を現在詰めております。

『新・五代友厚伝』出版記念碑建立披露式典 開催

大阪市立大学同窓会が八木孝昌氏(昭和41卒/帝塚山学院大学・生涯学習センター講師)に、大阪市立大学開学の祖である五代友厚の足跡と業績を「史実に基づいて正しく、かつ分かりやすく」書かれた書籍の執筆依頼をしていた『新・五代友厚伝』が令和2年8月出版の運びとなりました。

(PHP研究所刊、A5判、608ページ、定価:3,000円税別)

第一部 幕末立志編

第二部 明治壯図編

本書では、五代友厚の姿を誤って伝えられてきた「北海道開拓使官有物払い下げ事件」に関して、それを正すために、従来の五代伝では使われていない資料調査・発掘が必要となり、八木氏にご尽力頂き、この事件に関する従来の記述を覆す新事実も見つ

かりました。八木氏は、「この事件を論じた第二部第八章“北海道開拓使官有物払い下げ事件”を是非とも読んで頂きたい。また、いきなりその章を読んで頂いても差し支えのないように記述のまとまりに心がけました」と語っています。

この『新・五代友厚伝』出版と「海外ビジネス演習開設」「海外インターンシップ派遣」事業について、多くの方々からご理解・ご協力のうえ、ご寄付も頂いたことを記念して、「記念碑」を建立し、顕彰させて頂きたく、令和2年9月26日(土)15時より、『新・五代友厚伝』出版記念碑建立披露式典を五代スクエア(雨天の際は田中記念館)で開催いたします。



2020年度 商経講座開講

今年度の「商経講座」は、昨今の新型コロナウイルス感染状況により、対面方式ではなく、遠隔授業で行うことになりました。

- (1) 日時:2020年10月～2021年1月
木曜日第4限目(15:15～16:55／100分講義)
全14回実施予定
- (2) 方法:Zoomを利用した遠隔授業

大口のご寄付をいただきました



今般、菅野勲様(昭和39年法学部卒)から、有恒会に多額のご寄付をいただきました。改めて感謝申し上げます。

引き続き、有恒会は、皆様のご期待に添えるような活動を行ってまいります。

同窓会・有恒会スケジュール(2020年)

● 戦没学友の碑 献花の集い

8月4日に戦没学友の碑御前にて行われました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大のため、最小限の人数で、簡素化式典となりました。

● 有恒会総会関連

4月23日:有恒会役員会がメールで開催されました。

5月23日:有恒会評議員会がメールで開催されました。

有恒会総会と有恒会創立130周年記念式典は、11月3日開催予定です。コロナ感染対策で、人数制限しております。

● OBOGとの交流会

7月4日予定の公務員OBOGとの交流会は延期されました。

8月22日:教員OBOGとの交流会はZoom交流会に変更されました。

11月28日:民間企業勤務OBOGとの交流会は開催予定です。

● 大阪市立大学創立140周年記念式典

12月3日に延期され開催予定ですが、祝賀会は中止とさせていただきます。

● 中止された主な行事

4月3日:有恒会創立130周年記念「五代友厚と桜まつり」

5月16日・17日:ボート祭

11月16日:秋のワンデイトリップ

有恒会130周年記念誌の読者の感想

中岡深雪(経博平19年修了)

この度は記念誌をお送り下さりありがとうございました。あのような立派なものとは存じず、執筆をさせていただいたので2冊も頂戴してしまい、恐れ入ります。1冊は同級生に送ります。実家で親が先に拝見し、私が掲載されていたことに大変喜んでおりました。また子供にも母校の写真を見せてあげることができました。

貴重な機会をいただきどうもありがとうございました。最後になりましたが、今後とも有恒会と大阪市立大学の発展を心より祈念しております。

大変な毎日が続いておりますが、どうぞご自愛下さいませ。

ニュースレター以外にも情報発信のチャンネルが色々あります

■ 大阪市立大学同窓会ホームページ

市大卒業生や現役学生の広範囲な情報を発信

■ 有恒会ホームページ

主に有恒会活動を発信

■ メールマガジン

毎月15日にパソコン・スマホに情報を送ります。

■ フェイスブック／ツイッター

毎日更新。タイムリーな話題が満載です。

※検索ワードは「大阪市立大学全学同窓会」です。

編集後記

“大阪公立大学” 漸く新大学名も決まり2022年4月の開校に向けてスタンバイになるも、コロナ禍で大わらわ。市大病院や学生へのサポートに奔走。本来なら有恒会130周年記念で記念総会やシンポジウム、各支部総会が催されているところがほとんど中止。かろうじて130周年記念誌が発行出来たことがせめてもの救いであった。早くコロナ禍が収束されることを望むばかりだが、ウィズコロナの新生活に切り替えるを得ないのが現実でしょう。

(編集人)

訂正とお詫び

130周年記念誌にて下記誤りが有りました。お詫びして訂正いたします。

目次・P86 松田芳昭(中西ゼミ)商昭42卒→経昭42卒

目次・P90 青木育志(吉富ゼミ)法昭42卒→法昭46卒

P136 経営学研究科長 向山敏夫→向山敦夫

投稿のご案内

皆様方の近況・ご意見を投稿を「読者の声」欄に掲載しますので奮ってご投稿ください。(200字程度) 投稿先:kaiho-b@ado.osaka-cu.ac.jp